

木曽へ行こう！

5月11日に池田聡寿先生に「木曽ヒノキの自然と文化」を講演していただき、5月25日付けで観察会のご案内をしました。この観察会について改めて詳細をご紹介します。魅力いっぱいの観察会です。多くのご参加をお願いします。

2019.6.12 自然学講座スタッフ

木曽ヒノキと池田聡寿先生

戦国時代に焼き討ちにあった社寺の復興や城の建築のために1600年～1660年位までの間、木曽の山はほとんど全てが尽山（つきやま：大樹が一切ない山）となっていました。強度の過伐の後、江戸初期にわずかに残された母樹から風に運ばれた大量の種が発芽し、300年以上の悠久の時間を風雪に耐えて育ち、檜一本首一つとまで言われた尾張藩の厳しい森林管理のもとに復活し美林になりました。

伊勢神宮の20年ごとの式年遷宮には約一万本に近い檜が必要とされ、中には直径1メートル余り、樹齢400年以上の巨木も使用されます。木曽の山は約300年ほど前から御杣山として用材を調達してきました。

池田聡寿先生が「俺のやりかたっていつもそうだけど、自分で出かけて行って自分の目で実際見て、価値判断する尺度をつくるんだ。世界遺産の屋久島や白神山地にも行ってその森を見てきた。これなら木曽も世界遺産を目指せるんじゃないかって、真剣に思っている」と語る木曽ヒノキの自然と文化を訪ねる旅です。



木曽ヒノキの森（池田木材（株）ホームページより）

【7月10日（水）の見所】

妻籠宿

妻籠宿は、中山道で、現在は長野県木曽郡南木曽町。隣接の馬籠宿（岐阜県中津川市）と、馬籠峠を

越える旧中山道史蹟と合わせて木曽路を代表する観光名所として名高い。

妻籠宿は中山道 42 番目の宿場。飯田街道の追分に位置する交通の要衝で、天保 14 年（1843 年）の『中山道宿村大概帳』によれば、妻籠宿の宿は本陣 1 軒、脇本陣 1 軒、旅籠 31 軒で宿内人口は 418 人。1960 年代に深刻となった長野県の過疎問題の対策として、開発事業としての保存事業が基本方針となった。1968 年から 1970 年にかけて明治百年記念事業の一環として寺下地区の 26 戸が解体修復された。その後、観光客が増え始めたことから観光関連施設の整備が行われるようになり、保存事業を制度面から後押しするために、1973 年に当時としては例の少ない、町独自の町並み保存条例である「妻籠宿保存条例」が制定された。



経済成長に伴い全国の伝統的な町並みが姿を消してゆく中、いち早く地域を挙げて景観保全活動に取り組んだことが評価され、1976 年、国の重要伝統的建造物群保存地区の最初の選定地の一つに選ばれた。他の保存地区と異なり、周辺の農地など宿場を支えた環境全体を保存するため、国有林を含めた広範囲が指定されている。

（１）妻籠宿脇本陣奥谷

代々脇本陣・問屋を勤めた家で、現在の建物は明治 10 年にそれまで禁制であった桧をふんだんに使い、当時の粋を集めて建てたもの。また、島崎藤村の初恋の相手「ゆふ」さんの嫁ぎ先でもある。平成 13 年 6 月、国の重要文化財に指定。



（２）妻籠歴史資料館

南木曽町や木曽路の歴史、町並み保存運動、全国の町並みなどの資料を模型や映像を用いてわかりやすく展示。

（３）妻籠宿散策



【7月11日の見所】

1. 赤沢で天然更新実験林見学

長野県木曽地方の天然生ヒノキ林から産出される材は木曽ヒノキとして高く評価されているが、ヒノキ美林を後世に残すための天然更新技術の開発は、更新成功の検証に時間がかかるため、十分に進んでいない。そこで、木曽地方上松町の赤沢施業実験林で1985年に行われた高齢ヒノキ林での上木の択伐試験の26年間にわたる追跡結果を解析した結果、ササのない木曽ヒノキ林分では、下層のアスナロすべてとヒノキの択伐（本数で42%、材積で28%）と低木の刈り払いによって、稚樹の発生と成長が促され、更新が順調にすすむことが分かった。このような調査・実験を行う天然更新実験林を見学する。

2. 赤沢休養林トレッキング



赤沢自然休養林は、上松町の南西部に広がる針葉樹林です。面積は728ヘクタール、標高は駐車付近の1080mから、1558mに至ります。

この森林は国有林にあたり、国の林政で伐採を免れてきた地域です。江戸時代は尾張藩の保護政策、明治時代には御料林と伊勢神宮の造営用備林に、戦後から現在は国有林に指定されてきました。

1970年に国内第一期の自然休養林として開園し、1982年には林野庁の提唱した森林浴イベントを初めて開催。年間の利用者数は、平均10万人。開園期間は4月末のゴールデンウィークから11月上旬までで、例年は4月29日に開園、11月7日に閉園というスケジュールが一般的です。11月から4月までは冬期閉園となりますが、ゲートなどはありません。ただし水道施設が凍結のため使用できなくなります。最大で、積雪は1.5m前後に達します。

『トレッキングは池田先生案内の若干の高低差もある健脚コース（冷沢コース）とNPO法人「ひのきの森」理事長の横井さんに案内していただくオオヤマレンゲも見ると見る散策コース（駒鳥・向山コース）の二つを用意しています。』

3. 池田木材（株）工場見学

- 会社名 池田木材株式会社
- 代 表 池田聡寿
- 創 業 昭和 35 年
- 資本金 4750 万円
- 社員数 15 人



当社の特徴はその在庫の豊富さにあります。

第一倉庫、第二倉庫、灰沢倉庫、本社工場、瀬林土場、倉本土場を有し、木曽深山の厳しい大自然の中で育った木曽材（木曽檜・人工木曽ひのき・サワラ・ネズコ・コウヤマキ・広葉樹）を豊富に（製品・丸太共に 1000m³ 以上）取り揃え、積年の経験と知識で適材適所に使い分けあなたの夢を形にします。

（池田木材（株）ホームページから）

4. 旅館たかの湯「百草の湯」

木曽御嶽山麓の宿。たかの湯自慢の薬湯「百草の湯」は木曽五木の一つであるコウヤマキの浴槽を使ったお風呂。木曽御嶽山は霊山としてだけではなく、野草の宝庫としても名高い山です。「百草の湯」は御嶽山に群生する薬草を主成分とした入浴剤を使用しています。薬湯は体を芯からじっくり温め、旅の疲れ、日々の疲れを和らげます。 〒397-0201 長野県木曽郡王滝村 3168-2

（たかの湯ホームページから）



御嶽山



旅館たかの湯

【7月12日の見所】

1. 開田高原

木曽御嶽山東面に標高が 1,100～1,500m に広がる開田高原は、真夏でも平均気温が 18 度という爽やかな高原です。日本では数少ない在来馬「木曽馬」とそばのふるさと。近年ではめぐまれた自然環境を利用したウォーキング、サイクリングと健康増進を組み合わせたヘルスツーリズムツアーも盛んです。各所からとても雄大で美しい御嶽山（標高 3,067m・日本百名山）を見ることができます。

2. 木曽馬牧場

木曽馬は長野県木曽地域を中心に飼育されているウマの一品種。また日本在来馬の一つでもある。岐阜県飛騨地方でも飼育されている。



日本在来種は他に北海道和種（北海道、俗称：道産子）、野間馬（愛媛県今治市野間）、対州馬（長崎県対馬市）、御崎馬（宮崎県都井岬）、トカラ馬（鹿児島県トカラ列島）、宮古馬（沖縄県宮古諸島）、与那国馬（沖縄県八重山諸島）がいるが、本州の在来種は木曽馬のみである。

一時絶滅寸前であったが木曽馬保存会が中心に活動が行なわれた結果、飼育数は増加した。しかし以前のような乗用、農耕を目的とした需要はなく、現在は 200 頭以下という。

平安時代から江戸時代にかけて、武士の馬として使用された。

起源ははっきりしていないが、元々は蒙古の大陸系の馬である。一説では紀元前 1 世紀の漢で改良された「蒙古草原馬」が 2～3 世紀、朝鮮半島経由で渡来したという。この馬が木曽地域という山岳地帯で飼育された影響で、木曽馬となったとされる。（wikipedia より）

【観察会のお申込み】

添付の募集案内の参加申込書に記載のうえ、EメールまたはFAXで6月21日までに岩佐にお届け下さい。

Eメール：satoshi.iwasa@iris.eonet.ne.jp

FAX: 0725-43-8034